

### 3 グラフィックシラバスの取組について

本校では、生徒たちが見通しをもって学習に取り組み、自己評価を踏まえて効果的に改善を図ることができるようになる1つの方法として「グラフィックシラバス（授業全体の見取り図）」に取り組んでいます。

「グラフィックシラバス（図示化されたシラバス）」とは、授業における重要概念間の系統性・関係性を図示化したフローチャートやダイアグラムのことを言います。コンセプト・マップ（概念地図法）と呼ばれる学習指導法をシラバスに応用したものです。教員にとっては、知識の組織化・構造化を促進するのに有効であり、学習者にとっては、注意喚起、概念の理解促進、記憶の定着のために有効とされています。

出典：「インタラクティブ・ティーチング ―アクティブ・ラーニングを促す授業作り―」

編者栗田佳代子、日本教育研究イノベーションセンター、河合出版 P79～を抜粋

年度当初の授業で、グラフィックシラバスを提示しながら授業を説明することによって、生徒は授業全体を俯瞰することができますので、シラバスにグラフィックシラバスを同居させる形で作成することを継続しています。生徒に一層フィットしたものになるよう、検討を継続しています。

また、生徒自身に年度最終段階において、1年間の授業を振り返って作成させることもできます。この取組は、学習成果の確認という評価の機能を持つことにもなります。「家庭基礎」「科学家庭」では、生徒が1年を振り返って作成するものを「マイグラフィックシラバス」と名付け、作成した図をグループ内でプレゼンする取組を継続しています。プレゼンは、英語を使っての発表に挑戦し、クラスによってはALTの先生方に参観してもらい、アドバイスもいただきました。「英語の日常使い」の一場面として、様々な教科で取り組むことができる実践です。

グラフィックシラバスの作成手順は下記の通りです。

#### ①キーワードの書き出し

当該授業で重要であると考えたキーワードを、ふせんに書きだします。例えば、各回・各章のトピックやテーマ、授業で扱う重要な概念、到達目標等です。この際、1枚に1キーワードを書くようにします。

#### ②配置する

ふせんを白紙の上に並べます。その際、構造原理を意識しながら並べます。（例：順序性、同質性、優先順位性、因果関係）。ふせんのキーワード同士を矢印で結ぶと構造が明らかになります。

#### ③見出し付け

同質のふせんを集めて丸で囲み、見出しをつけます。

#### ④自己点検

「キーワード同士の関係がわかりやすく示されているか」「興味深く見てもらえるか」「記憶に留まりやすいか」「生徒にとって、自らの学習内容の把握に役立つか」といった点に留意しながら見直していきます。

このグラフィックシラバスの活用方法について、再度年間を通してまとめてみます。本校家庭基礎では、下記のような活用実践を継続しています。

\* 初回に提示する。

提示しながら授業を説明することで、生徒は授業全体を俯瞰できる。令和3年度からは google サイトで作成した「家庭基礎サイト」を生徒に提示し、そこに配置することで、いつでも見やすい状態とした。また、授業最初にも時折見せる場面を作り、現在の進捗を知らせることに使っています。

\* 前年度生徒が作成したものを「家庭基礎サイト」に提示する。

これから学習する内容について、新年度の生徒たちが授業の概要を知ることができ、授業の見通しをもつことができます。Webサイト上に掲載できるので、複数枚をいつでも見ることができます。

\* 授業の最終段階で生徒に作成させる。

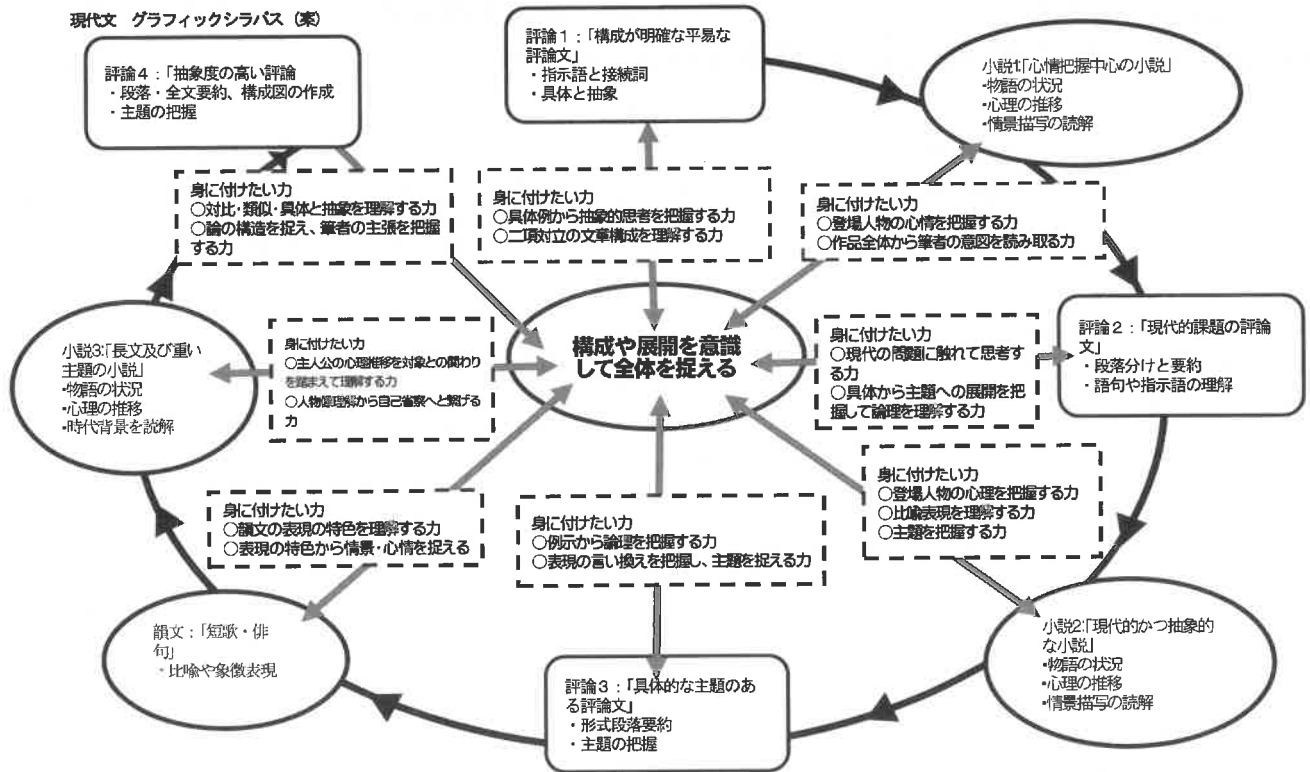
授業成果の確認ができ、総括的評価の一部に位置付けています。この科目を学んだことで「どんな力がついたのか」を振り返り表現することで、学びの進捗状況を自分で理解する場面となります。

\* 生徒自身が作成したものを、文章で説明させる。

生徒は、その内容を復習することになり、記憶を定着することにつながります。複数のクラスにおいて英語で説明することを課し、ALTに伝える機会を作りました。

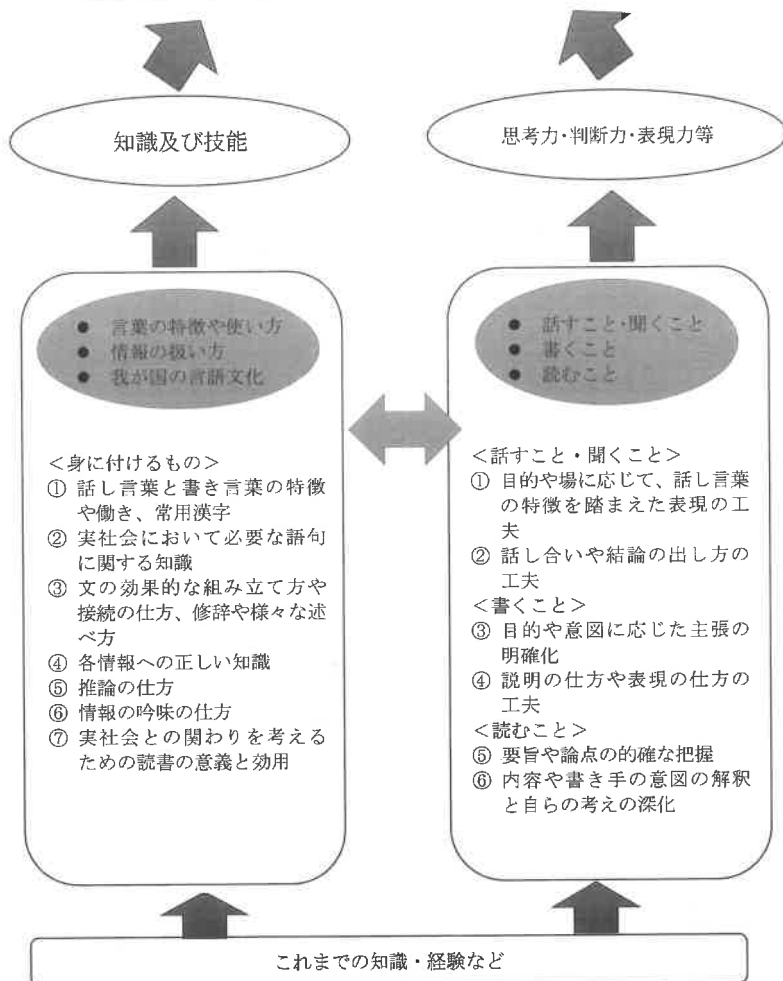
ここでは、教師が各教科で作成検討中・活用中のグラフィックシラバスを掲載いたします。

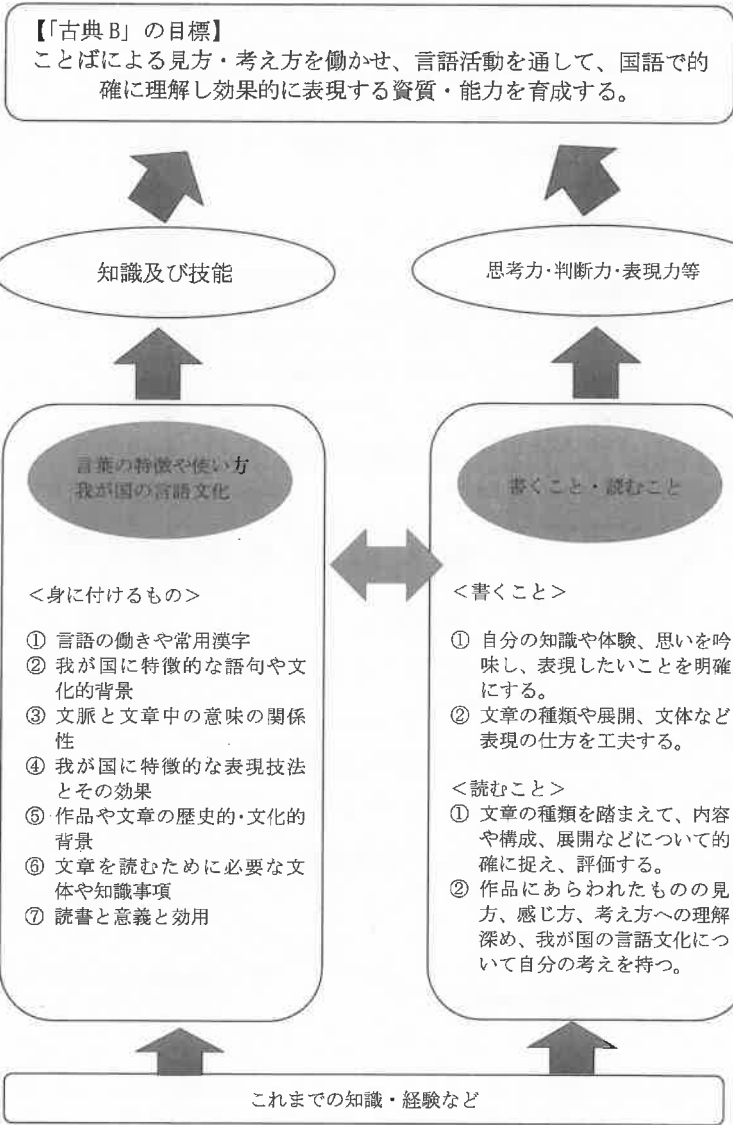
現代文 グラフィックシラバス (案)



【「現代文B」の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。



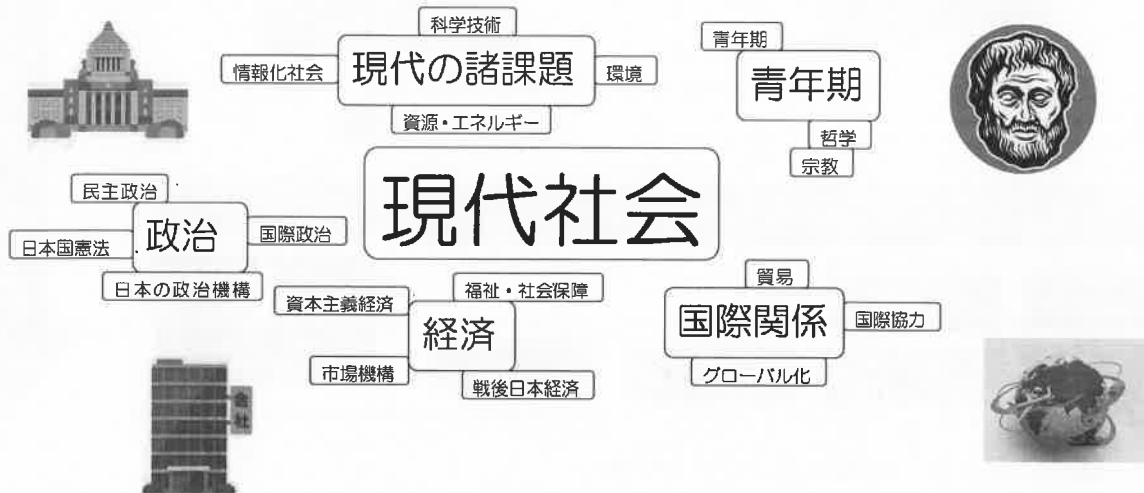


現代社会 (2単位) 1年生

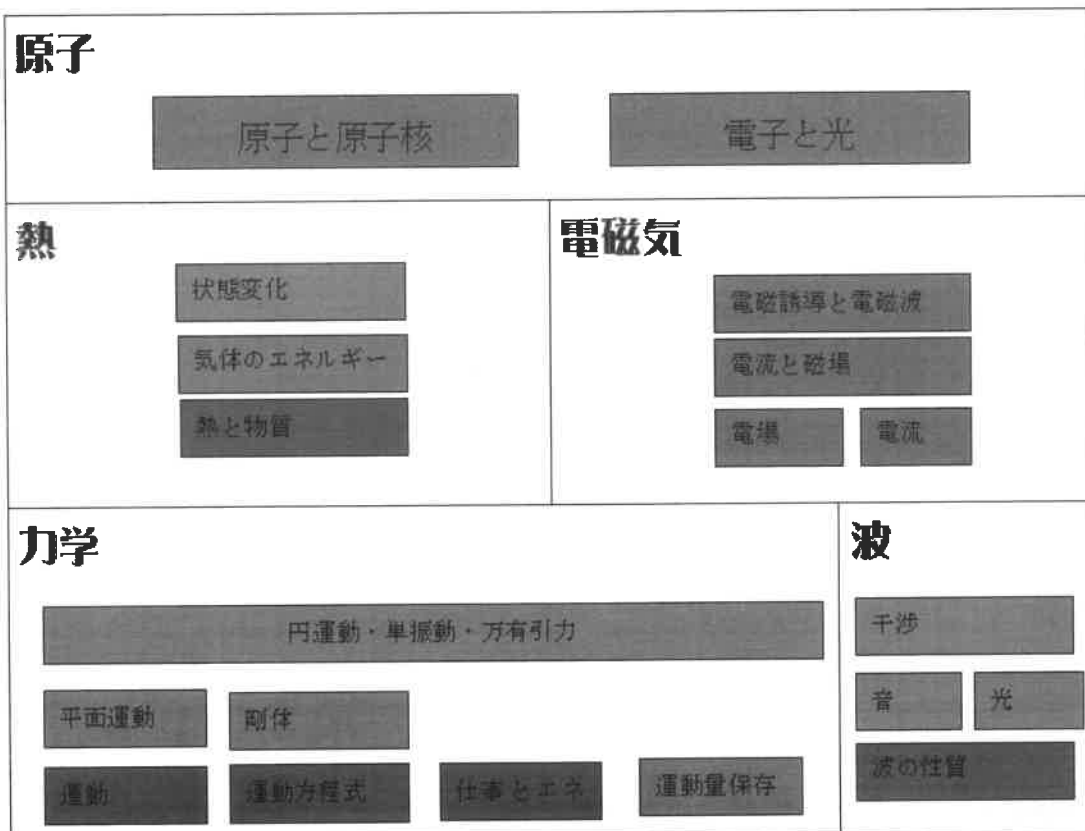
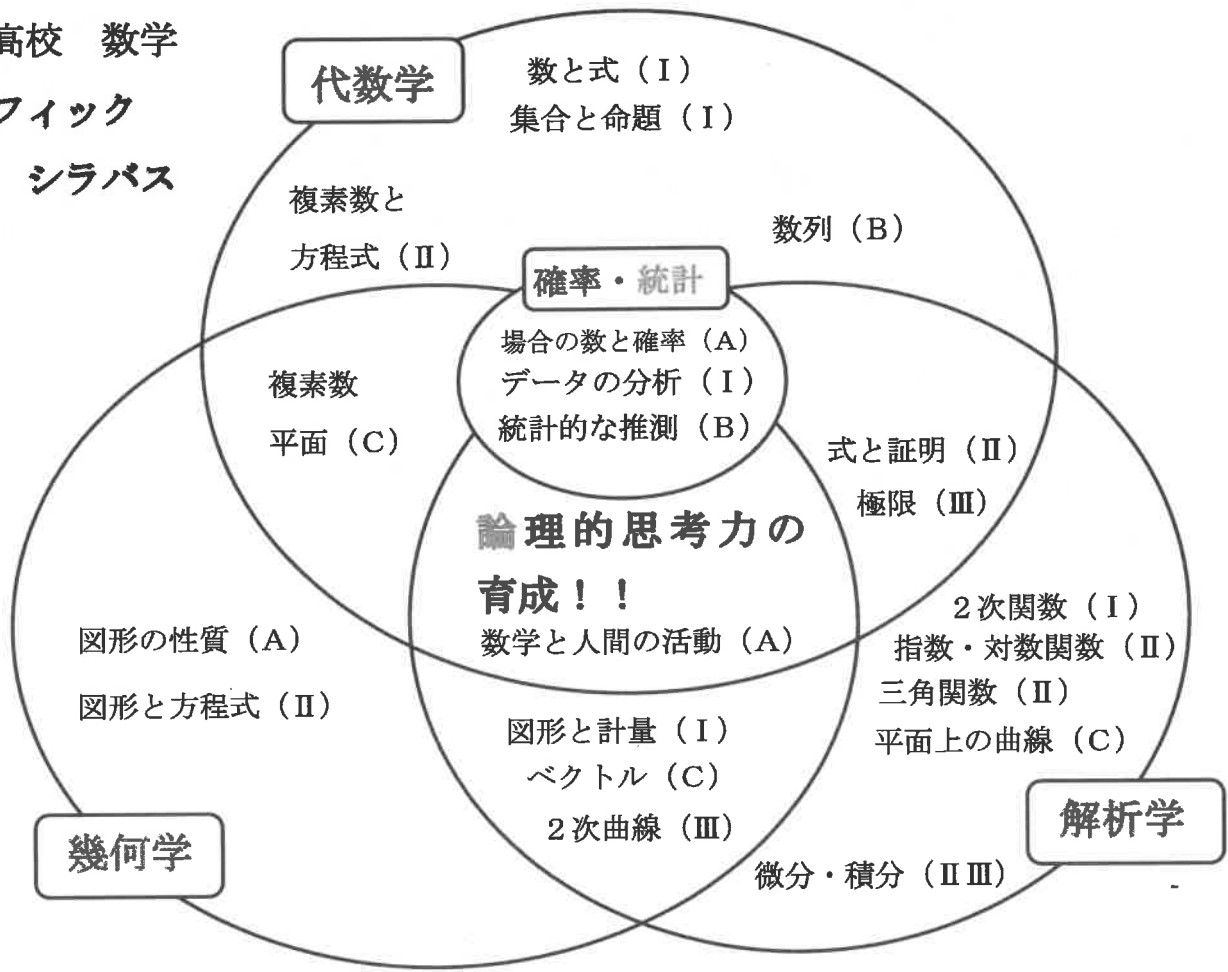
小論文

新聞投稿

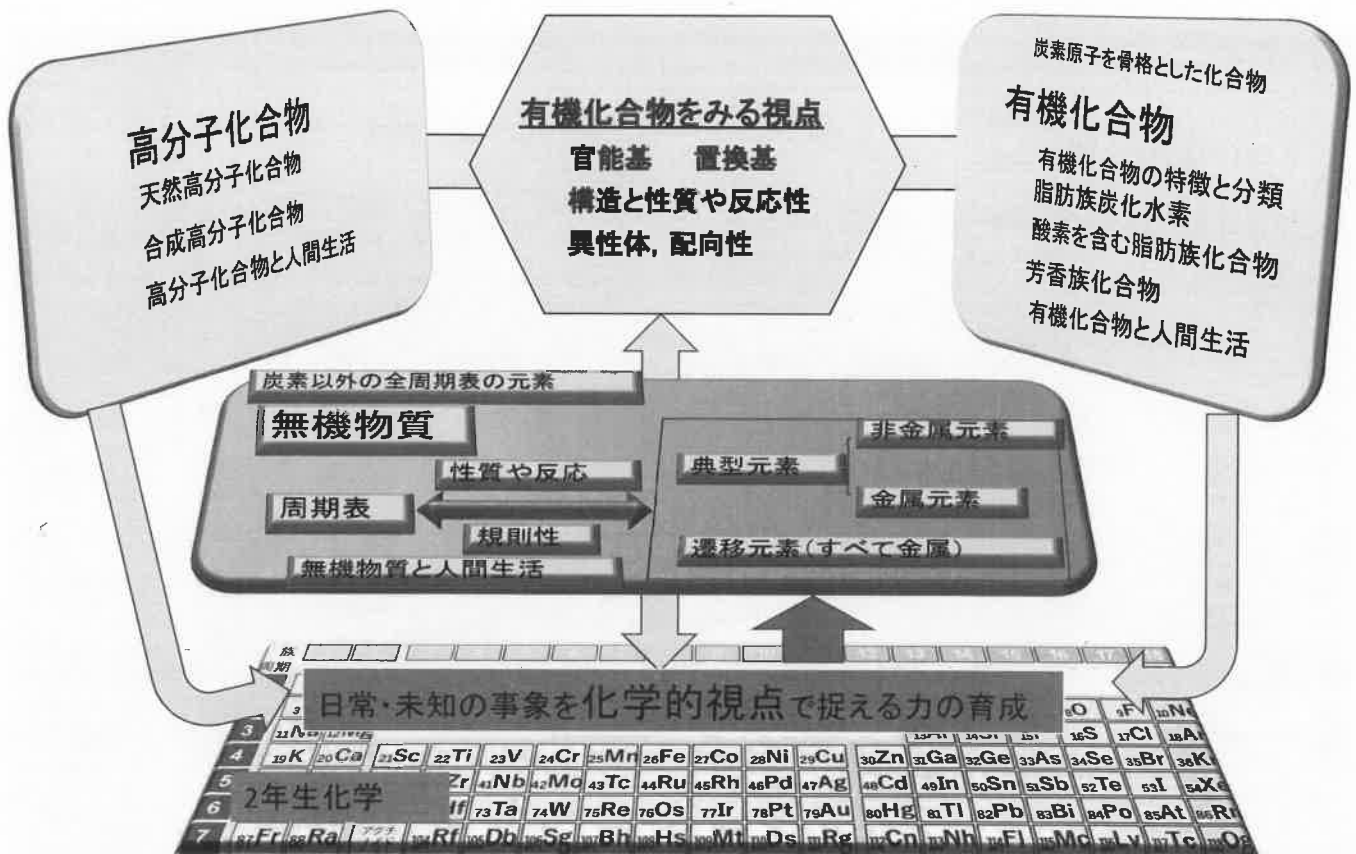
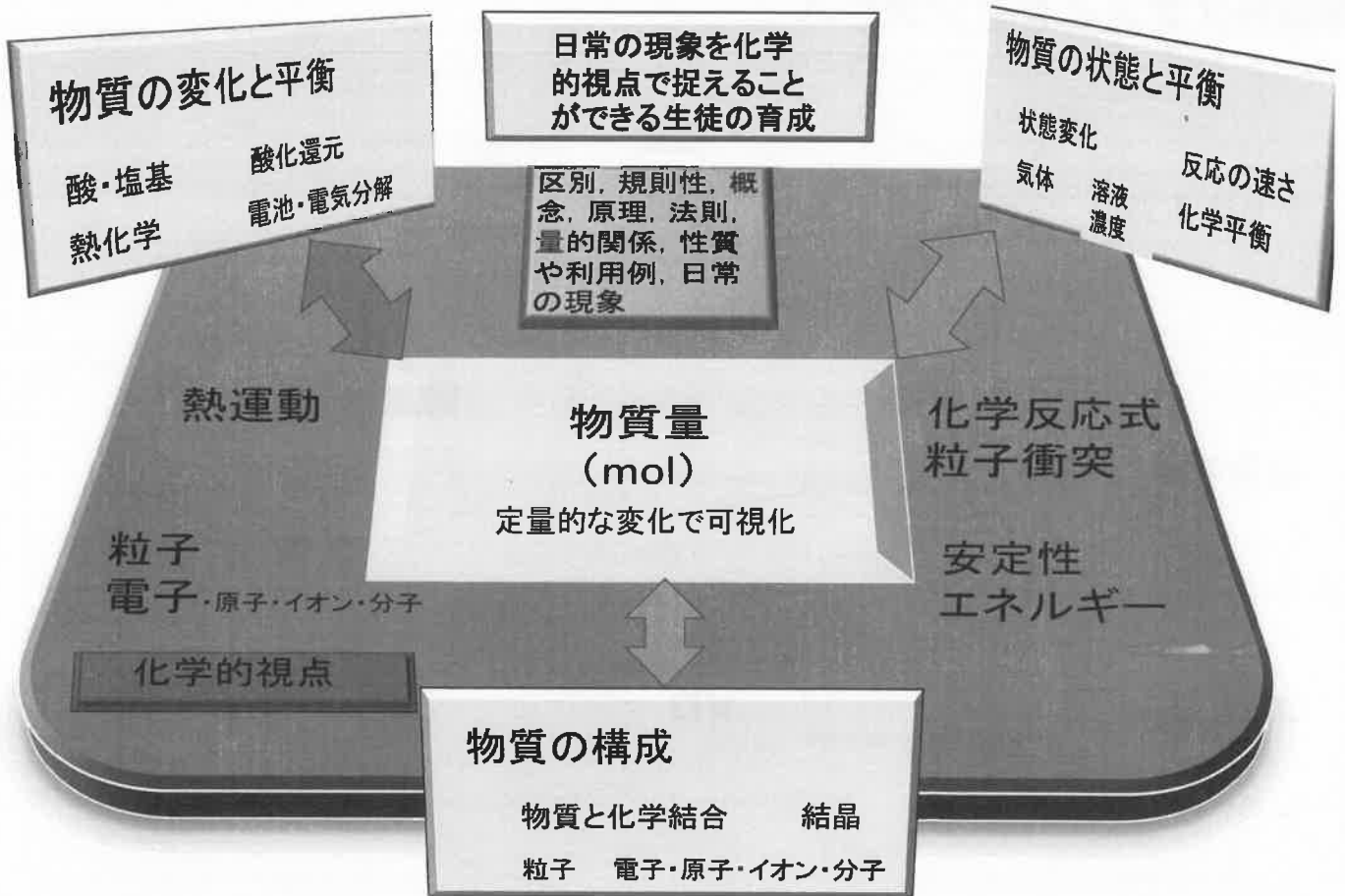
課題研究発表



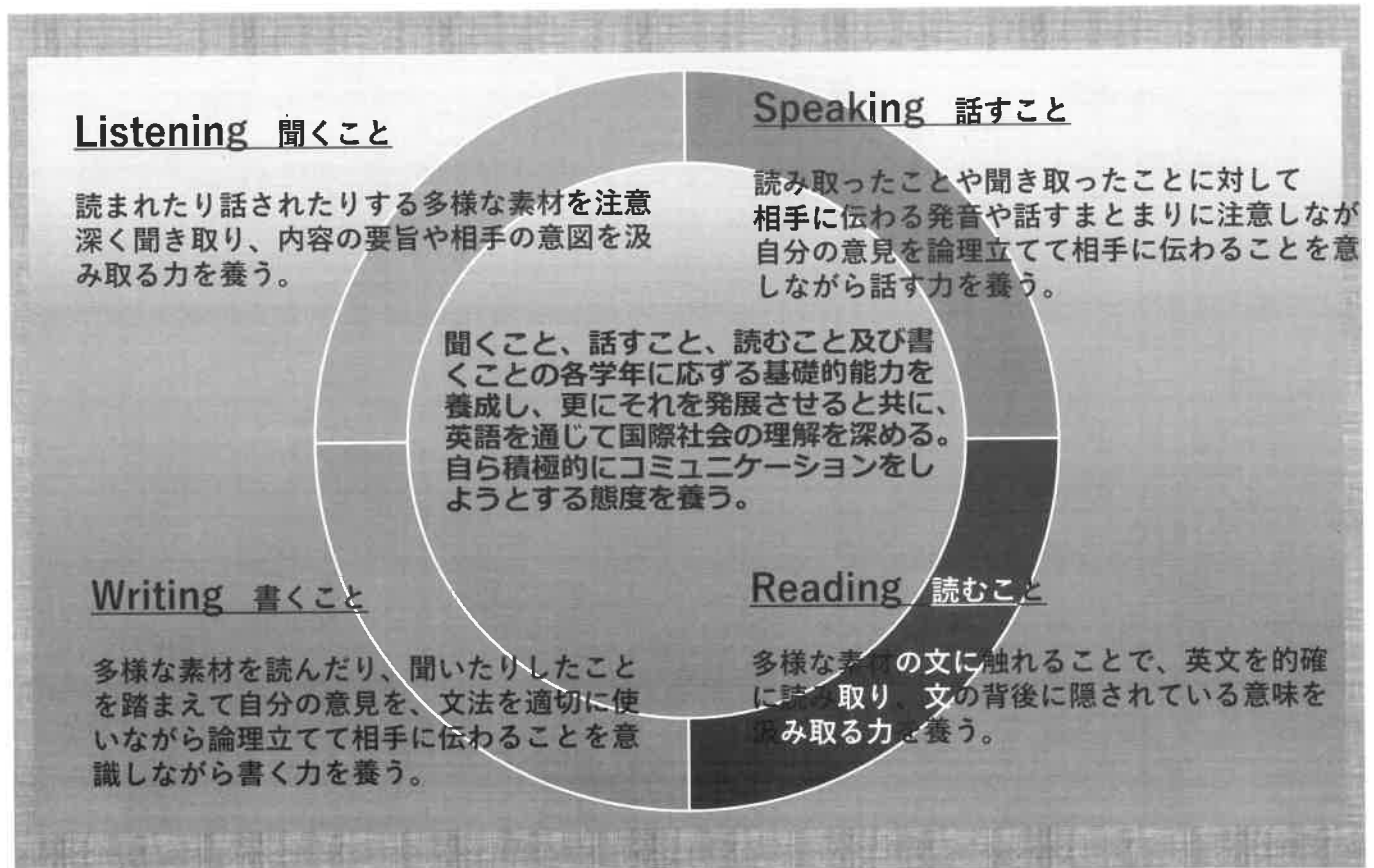
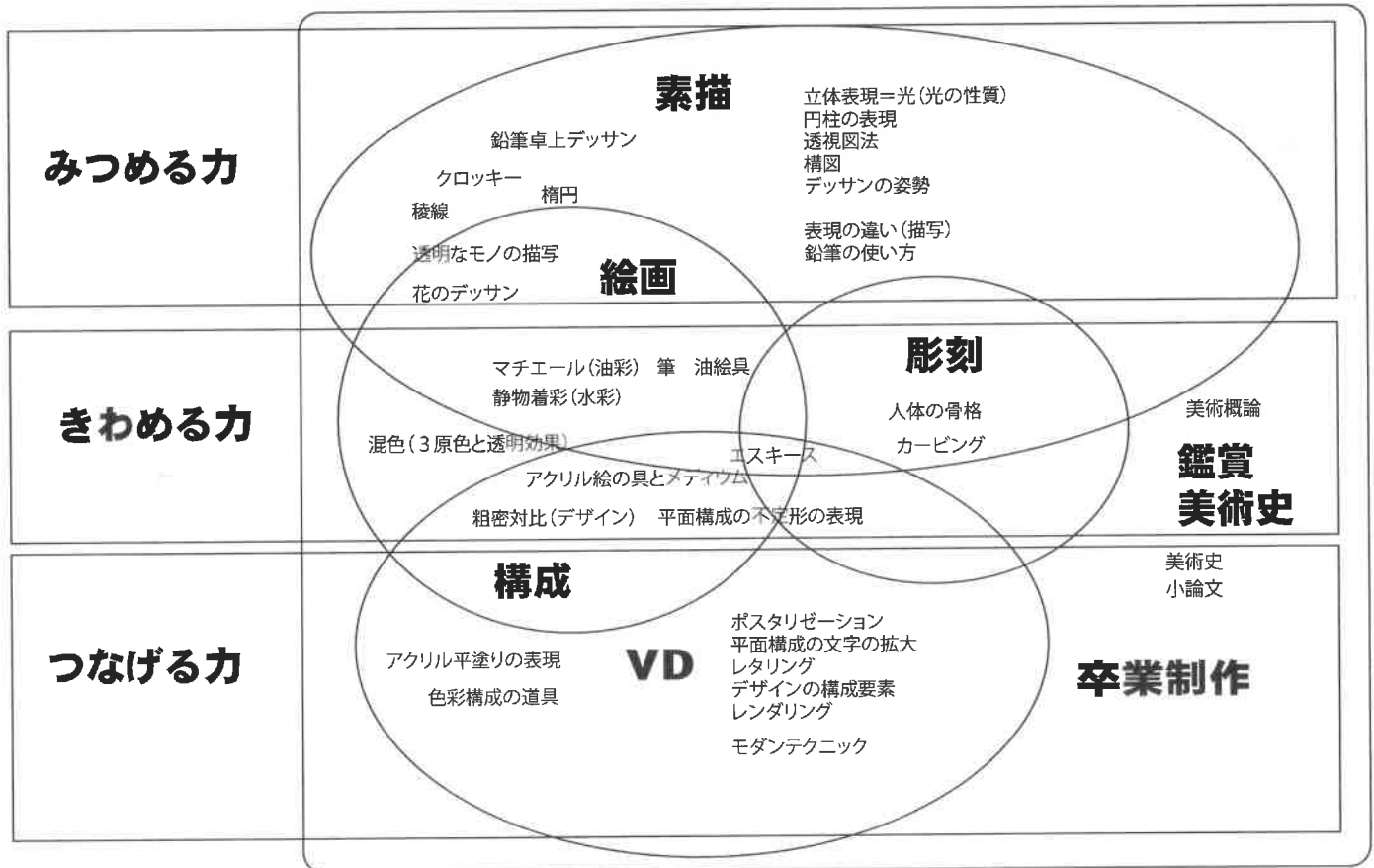
第二高校 数学  
グラフィック  
シラバス

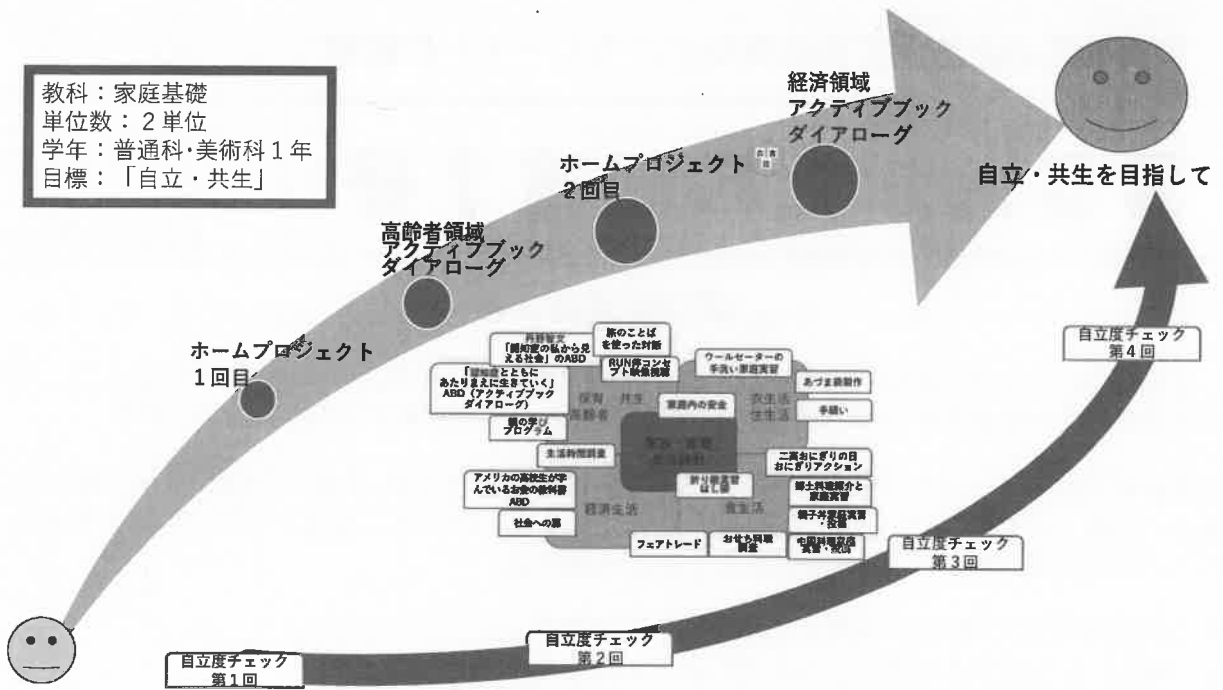


青：1年次（2単位）、緑：2年次（3単位）、赤：3年次（4単位）



# 美術科グラフィックシラバス





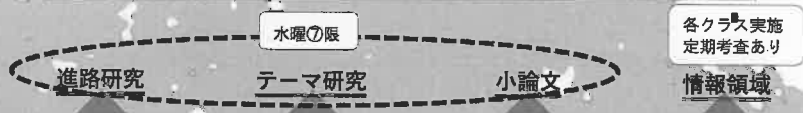
教科：家庭基礎  
 単位数：2単位  
 学年：普通科・美術科1年  
 目標：「自立・共生」

**GR・AS シラバス**

科学的視点から熊本の創造的復興をリードする人材の育成

みつめる力 ・ きわめる力 ・ つなげる力

GR, ASの目標  
 主体的・協働的学びを通して、科学的探究能力とともに、自己の生き方、在り方を考える。



**3年生 将来のビジョンの確立と進路実現への実践**

- 進路実現への具体的行動。
- テーマ研究を英語で要約し、プレゼンテーションをおして、グローバルに発信する意識を高める。
- 進路目標に応じた、読解力、分析力、表現力を養う。

**2年生 探究活動を通して、科学的に探究する態度を養い、自己の生き方、在り方を深く考える**

- より専門性を意識した進路研究。テーマ研究と進路を関連付け、自分の強みを育てる。
- 個人研究を行い、課題設定、課題解決、プレゼンテーションなど科学的探究の手法を身に付ける。
- 社会的課題に対する自己の考えを明確にし、論理的に表現する。
- 問題解決の手法と、Chromebookを活用しeポートフォリオにする。

**1年生 科学的探究の基礎を養い、自己の生き方、在り方を見つける**

- 自己の生き方、在り方を考える。学び方を学ぶ。
- グループで話し合い当事者意識を養い、ミニテーマ研究で科学的探究の手法の基礎を学ぶ。
- 文章による表現力の基礎を養い、論理的な思考力を育てる。
- 教科「情報」の学習をベースに探究に必要な情報処理と表現を学ぶ。

各教科の教育活動の過程で育成される科学的探究能力の土台となる力

教科	国語	英語	社会	数学	理科	家庭	保健・体育	芸術
I 習得	説明する	説明する	社会的課題を調べる	数を可視化する	観察する	調査・実験・レポート	調査・実習・レポート	表現する
C 活用	解釈する	解釈する	当事者意識を高める	数値化する	分析する	当事者意識を高める	当事者意識を高める	分析する
E 探究	批評する	批評する	意見を持つ	論理的に証明する	考察する	実践する	実践する	比較する 企画する